第12回
地域医療フォーラム 2019

Community Medicine Forum

地域医療の新しいかたち
～広域の連携診療システム～

メインテーマ

「地域医療の新しいかたち」

～広域の連携診療システム～

開 催 日　令和元年９月15日（日）

会　　場　秋葉原ダイビル　　東京都千代田区外神田1-18-13

主　　催　自治医科大学

後　　援　総務省、厚生労働省、文部科学省、全国知事会、公益社団法人日本医師会、公益社団法人全国自治体病院協議会、公益社団法人全国国民健康保険診療施設協議会、全国地域医療教育協議会

実行委員　◎松村　正巳（自治医科大学地域医療学センター長）
○前田　隆浩（長崎大学病院総合診療科教授）
○小谷　和彦（自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門教授）
内田　健夫（医療法人社団内田医院理事長）
大槻マミ太郎（自治医科大学副学長）
金丸　吉昌（宮崎県美郷町地域包括医療局総院長（全国自治体病院協議会理事））
鎌村　好孝（徳島県保健福祉部副部長）
小池　創一（自治医科大学地域医療学センター地域医療政策部門教授）
佐田　尚宏（自治医科大学附属病院長）
遠山　信幸（自治医科大学附属さいたま医療センター副センター長）
中村　伸一（福井県おおい町国保名田庄診療所長（国診協診療所部会長））
春山　早苗（自治医科大学看護学部長）
藤本　幸男（青森県良医育成支援特別推進員）
百村　伸一（自治医科大学附属さいたま医療センター長）
（以上50音順、◎：委員長、○：副委員長）

ワーキンググループ
◎小谷　和彦（自治医科大学地域医療学センター副センター長）
青山　泰子（自治医科大学総合教育部門兼地域医療学センター）
里光やよい（自治医科大学看護学部）
鈴木　達也（自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門）
寺裏　寛之（自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門）
浜端　賢次（自治医科大学看護学部）
間辺　利江（自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門）
（以上50音順、◎：リーダー）

第12回 地域医療フォーラム２０１９

目　次

○ 刊行の挨拶 …… 4

○ チラシ …… 5

○ 次　第 …… 6

○ 基調講演 …… 7

○ 指定講演 …… 8

○ 分科会～グループワーク～ …… 10

○ 全体会（分科会報告） …… 14

○ フォトグラフ …… 16

報告書の刊行にあたって

第12回地域医療フォーラム2019実行委員会

委員長　松村　正巳

（自治医科大学地域医療学センター長）

令和元年９月15日（日）、「第12回地域医療フォーラム2019」を秋葉原ダイビルにて開催いたしました。三連休の中日にもかかわらず参加くださいました147名の皆様には、厚く御礼申し上げます。

昨年のフォーラムでは「人生100年時代における地域社会と地域医療 ～現場から考える～」というテーマのもと、人生100年時代を迎えた地域社会においては地域の人材・情報・場を活用し、皆が「わがこと」という意識を持った地域社会づくりの参画が不可欠であるとの提言をまとめました。

今年度は地域医療構想においても大変注目されているテーマ「地域医療の新しいかたち ～広域の連携診療システム～」を取り上げ、永井良三学長には「人口減少時代の地域医療と公共哲学」と題した基調講演を行っていただきました。指定講演は、永井康徳氏に「都市部とへき地を結ぶ循環型診療」、武藤真祐氏に「都会におけるネットワーク式の在宅診療」、後藤忠雄氏に「自治体間のグループ式の診療」をご講演いただきました。

分科会では「都市部とへき地を結ぶ循環型診療 ～人材の確保とへき地住民の生活の保全～」、「都会におけるネットワーク式の在宅診療 ～情報・役割・価値観の分担と共有～」、「自治体間のグループ式の診療 ～効果的で円滑な市町村連携の進め方～」という３つのテーマを設けました。参加者は各分科会に分かれて、多彩な視点から広域の連携医療システムについて議論を展開されました。その中でキーワードとして挙げられたのは、①広域診療体制に対する住民との協議の機会設定、②ICTを用いた情報の共有と活用の促進、③地域で働く意義を高めるとともにその環境を整備する工夫でした。今回はフォーラム当日に提言はまとめず、実行委員において後日とりまとめ、都道府県に提言することとしています。

これからの地域医療においては、ICTなどを活用し、持続可能なシステムを再構築することが欠かせません。過去２回のフォーラムに共通した認識は、情報の共有と「自助、互助」の精神でした。今回のフォーラムにおいても、これらが根底にあることが確認されました。

「地域医療フォーラム2019」の提言がこれからの地域社会と地域医療の更なる発展に寄与することを願い、この報告書を作成いたしました。多くの皆様のご参考になれば幸いでございます。

第12回

地域医療フォーラム 2019

参加無料

■テーマ

地域医療の新しいかたち
～広域の連携診療システム～

日時：令和元年 9月15日(日) 13：00～17：30

場所：秋葉原ダイビル(東京都千代田区外神田1-18-13)

プログラム

フォーラム　13：00～17：30 (受付開始 12：30)

○開会挨拶
自治医科大学地域医療学センター長　松村 正巳（フォーラム実行委員長）

○基調講演　「人口減少時代の地域医療と公共哲学」
自治医科大学学長　永井 良三

○指定講演
医療法人社団内田医院理事長　内田 健夫
自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門教授　小谷 和彦（フォーラム副実行委員長）
演題①「都市部とへき地を結ぶ循環型診療」
講師　医療法人ゆうの森 理事長 たんぽぽクリニック　永井 康徳
演題②「都会におけるネットワーク式の在宅診療」
講師　医療法人社団鉄祐会 理事長　武藤 真祐
演題③「自治体間のグループ式の診療」
講師　県北西部地域医療センター長兼国保白鳥病院長　後藤 忠雄

○分科会～グループワーク～
第１分科会「都市部とへき地を結ぶ循環型診療 ～人材の確保とへき地住民の生活の保全～」
第２分科会「都会におけるネットワーク式の在宅診療 ～情報・役割・価値観の分担と共有～」
第３分科会「自治体間のグループ式の診療 ～効果的で円滑な市町村連携の進め方～」

○全体会　各分科会の報告～まとめ～
自治医科大学地域医療学センター長　松村 正巳（フォーラム実行委員長）
自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門教授　小谷 和彦（フォーラム副実行委員長）

○閉会挨拶
長崎大学病院総合診療科教授　前田 隆浩（フォーラム副実行委員長）

参加者交流会　17：30～18：45 (於：秋葉原ダイビルホワイエ)

□参加申込方法

参加希望の場合には、専用ホームページ（https://www.jichi.ac.jp/community_forum/index.html）より、「地域医療フォーラム2019」参加申込書をダウンロードの上、必要事項を入力し、メールの添付にてお申込みください。メールでのお申込みが難しい方は、お電話にてお問い合わせください。なお、「地域医療フォーラム2019」で検索をかけていただいても同じページにたどり着けます。

□案内図

主　催：自治医科大学
後　援：総務省、厚生労働省、文部科学省、全国知事会、公益社団法人日本医師会、公益社団法人全国自治体病院協議会、公益社団法人全国国民健康保険診療施設協議会、全国地域医療教育協議会

お問い合わせ　自治医科大学 大学事務部 地域医療推進課 地域医療係
TEL.0285-58-7054／FAX.0285-44-6274　〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-1　E-mail forum@jichi.ac.jp

第12回地域医療フォーラム2019次第

地域医療の新しいかたち～広域の連携診療システム～

日　　時　令和元年９月１５日（日）１３：００～１７：３０

会　　場　秋葉原ダイビル
（交流会：秋葉原ダイビルホワイエ）

１．　開会挨拶
自治医科大学地域医療学センター長　松村 正巳（フォーラム実行委員長）

２．　基調講演　「人口減少時代の地域医療と公共哲学」
自治医科大学学長　永井 良三

３．　指定講演
医療法人社団内田医院理事長　内田 健夫
自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門教授　小谷 和彦（フォーラム副実行委員長）

演題①「都市部とへき地を結ぶ循環型診療」
講師　医療法人ゆうの森 理事長 たんぽぽクリニック　永井 康徳

演題②「都会におけるネットワーク式の在宅診療」
講師　医療法人社団鉄祐会 理事長　武藤 真祐

演題③「自治体間のグループ式の診療」
講師　県北西部地域医療センター長兼国保白鳥病院長　後藤 忠雄

会場移動（１５分間）

４．　分科会 ～グループワーク～

第１分科会「都市部とへき地を結ぶ循環型診療 ～人材の確保とへき地住民の生活の保全～」
ファシリテーター　医療法人社団内田医院理事長　内田 健夫
宮崎県美郷町地域包括医療局総院長　金丸 吉昌
自治医科大学地域医療学センター地域医療政策部門教授　小池 創一

第２分科会「都会におけるネットワーク式の在宅診療 ～情報・役割・価値観の分担と共有～」
ファシリテーター　徳島県保健福祉部副部長　鎌村 好孝
福井県おおい町国保名田庄診療所長　中村 伸一
自治医科大学附属さいたま医療センター副センター長　遠山 信幸

第３分科会「自治体間のグループ式の診療 ～効果的で円滑な市町村連携の進め方～」
ファシリテーター　長崎大学病院総合診療科教授　前田 隆浩
青森県良医育成支援特別推進員　藤本 幸男
自治医科大学看護学部長　春山 早苗

会場移動（１５分間）

５．　全体会　各分科会の報告～まとめ～
自治医科大学地域医療学センター長　松村 正巳（フォーラム実行委員長）
自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門教授　小谷 和彦（フォーラム副実行委員長）

６．　閉会挨拶
長崎大学病院総合診療科教授　前田 隆浩（フォーラム副実行委員長）

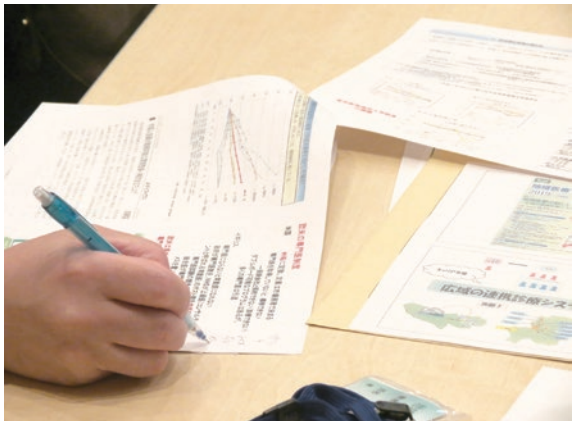
17：30～18：45 参加者交流会（於：秋葉原ダイビルホワイエ）

2019年９月15日（日）に秋葉原コンベンションホール（東京）において、「地域医療の新しいかたち～広域の連携診療システム～」をテーマに「第12回地域医療フォーラム2019」が開催された。全国各地から、多数の医療介護従事者、行政や教育の関係者、一般住民が集った。

演題「人口減少時代の地域医療と公共哲学」

永井　良三　先生（自治医科大学 学長）

自治医科大学学長の永井良三先生から「人口減少時代の地域医療と公共哲学」と題する基調講演がなされた。講演では、まず、人口減少、少子超高齢社会、東京への人口一極集中といった時代の変化のもとでの地域社会の現状と将来が提示された。社会の変化に応じて「地域医療」も相応に変化し、都会では病床機能の分化と連携が進むが地方では状況が異なること、したがって医師や診療科の偏在問題については情勢を注意深く読み解いて対処することが求められるという話がされた。こうした状況では、「公共哲学」に基づくこと、すなわち「活私開公」の言にみるような‘私’を活性化させつつ‘公共’に資する言動が意義を持ち、それは取りも直さず‘お互い様の社会’に通じるとの説示があった。



コーディネーター

内田　健夫（医療法人社団内田医院 理事長）

小谷　和彦（自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門 教授）

演題　①「都市部とへき地を結ぶ循環型診療」

永井　康徳　先生（医療法人ゆうの森 理事長 たんぽぽクリニック）

演題　②「都会におけるネットワーク式の在宅診療」

武藤　真祐　先生（医療法人鉄祐会 理事長）

演題　③「自治体間のグループ式の診療」

後藤　忠雄　先生（県北西部地域医療センター長兼国保白鳥病院長）

基調講演に続いて、時代の流れを踏まえた地域医療の新しい形である「広域連携診療」への先進的な取り組みに関する指定講演がなされた。

永井康徳先生（医療法人ゆうの森理事長 たんぽぽクリニック）からは、「都市部とへき地を結ぶ循環型診療」と題した講演があった。クリニックの本院がある都市部から80kmほど離れた海沿いのへき地診療所に本院の医師が交代で循環型に勤務して、都市部と並立して24時間体制の疲弊しない医療システムを構築している。多職種協働し「理念」「システム」「人材」において高いレベルを維持することで在宅医療の「質を高めること」を目指しているという話であった。

武藤真祐先生（医療法人鉄祐会 理事長）からは、「都会におけるネットワーク式の在宅診療」と題した講演があった。多資源・多施設が存在する大都会の広範囲な地域において、複数拠点でネットワークを組みながら在宅ケアを提供する方式についての話であった。地方の診療施設とも連携しており、この意味では都会に限定しない取り組みでもあった。

後藤忠雄先生（県北西部地域医療センター長兼国保白鳥病院長）からは、「自治体間のグループ式の診療」と題した講演があった。広範囲の中山間地における、市町村の枠を超えた、一拠点病院と複数診療所とのグループ診療（複数医師間での相互診療支援）についての話であった。これは公的な取り組みとしても注目された。

永井　康徳　先生
（医療法人ゆうの森 理事長 たんぽぽクリニック）

武藤　真祐　先生
（医療法人鉄祐会 理事長）

後藤　忠雄　先生
（県北西部地域医療センター長兼国保白鳥病院長）

「広域の連携診療システム」

≪第１分科会≫

「都市部とへき地を結ぶ循環型診療 ～人材の確保とへき地住民の生活の保全～」

ファシリテーター　内田　健夫（医療法人社団内田医院 理事長）
金丸　吉昌（宮崎県美郷町地域包括医療局 総院長）
小池　創一（自治医科大学地域医療学センター地域医療政策部門 教授）

≪第２分科会≫

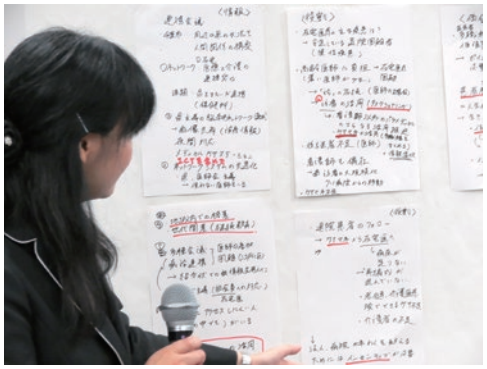
「都会におけるネットワーク式の在宅診療 ～情報・役割・価値観の分担と共有～」

ファシリテーター　鎌村　好孝（徳島県保健福祉部 副部長）
中村　伸一（福井県おおい町国保名田庄診療所長）
遠山　信幸（自治医科大学附属さいたま医療センター 副センター長）

≪第３分科会≫

「自治体間のグループ式の診療 ～効果的で円滑な市町村連携の進め方～」

ファシリテーター　前田　隆浩（長崎大学病院総合診療科 教授）
藤本　幸男（青森県良医育成支援特別推進員）
春山　早苗（自治医科大学看護学部長）



第1分科会

都市部とへき地を結ぶ循環型診療
～人材の確保とへき地住民の生活の保全～

ファシリテーター：内田　健夫（医療法人社団内田医院 理事長）
金丸　吉昌（宮崎県美郷町地域包括医療局 総院長）
小池　創一（自治医科大学地域医療学センター地域医療政策部門 教授）

ワーキンググループ委員
：間辺　利江（自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門）
里光やよい（自治医科大学看護学部）

一連の講演を受けて、「広域連携診療」の一般化可能性を主眼に参加者でグループワークを行った。指定講演に合わせて、３つの分科会で話し合った。

第１分科会「都市部とへき地を結ぶ循環型診療」では、へき地医療の確保、すなわちこのようなシステムを運用するための人材のリクルートとへき地住民の生活の保全についての議論があった。

・医療従事者の卒前後教育で地域、特にへき地の魅力を伝える。
・医療従事者はへき地医療の経験がキャリア形成に役立つことを広く発信する。
・行政は人材のリクルートや連携システムの協議に財政を含めて支援する。
・住民はへき地医療、特に総合医の必要性、複数医師の関与や在宅医療の意義に対する意識を進める。
・広域連携診療に携わる関係者の情報共有、特に施設間での病状の検討のような場面にICTを使う。

ファシリテーターによる分科会の趣旨説明

第2分科会

都会におけるネットワーク式の在宅診療

～情報･役割･価値観の分担と共有～

ファシリテーター：鎌村　好孝（徳島県保健福祉部 副部長）
中村　伸一（福井県おおい町国保名田庄診療所長）
遠山　信幸（自治医科大学附属さいたま医療センター 副センター長）

ワーキンググループ委員
：鈴木　達也（自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門）
青山　泰子（自治医科大学総合教育部門兼地域医療学センター）

第２分科会「都会におけるネットワーク式の在宅診療」では、都会においては資源や施設、そして人的関係性が多種多様で、情報も多い状況を考慮した上で、広域連携診療を機能化させる情報・役割・価値観の整理や共有についての議論があった。

・医療従事者は医療に対する価値観を共有する。
・医療従事者は患者さんの価値観を共有する。
・市民会議と共同して活動する。
・情報共有にICTを使う（情報整理の必要な都会では特に有用となる可能性がある）。
・メディカルICTコーディネーター（ICTの導入や運用の担い手）を養成する。

指定講演演者の先生方には、分科会にもご参加いただき貴重なご意見をいただいた。

第２分科会の特別発言者としてお越しいただいた加藤 寿 先生（秩父市立病院 臨床研修管理室長）

第3分科会

自治体間のグループ式の診療
～効果的で円滑な市町村連携の進め方～

ファシリテーター：前田　隆浩（長崎大学病院総合診療科 教授）
藤本　幸男（青森県良医育成支援特別推進員）
春山　早苗（自治医科大学看護学部長）
ワーキンググループ委員
：寺裏　寛之（自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門）
浜端　賢次（自治医科大学看護学部）

第３分科会「自治体間のグループ式の診療」では、効果的で円滑な市町村間の診療連携の進め方についての議論があった。

・医療従事者が働きたいと思えるような雰囲気や環境づくりを医療圏全体で進める。
・医療圏を構成する行政はシステムづくりに対する（首長、医療機関の関係者、住民が参加しての）協議の場を設ける。
・都道府県行政は診療システムに関する外部評価（レビュー）の役を担う。
・情報共有にICTを使う（自治体で導入でき、維持管理できるレベルであるべき）。
・地域医療連携推進法人のような仕組みを検討する。

ファシリテーターによる分科会の趣旨説明

第３分科会の特別発言者としてお越しいただいた新沢 敏章 先生（上都賀郡市医師会長）

全体会（分科会報告）

コーディネーター　松村　正巳（自治医科大学地域医療学センター長）
小谷　和彦（自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門 教授）

分 科 会 報 告　（ファシリテーター）

（第１分科会）内田　健夫（医療法人社団内田医院 理事長）
金丸　吉昌（宮崎県美郷町地域包括医療局 総院長）
小池　創一（自治医科大学地域医療学センター地域医療政策部門 教授）

（第２分科会）鎌村　好孝（徳島県保健福祉部 副部長）
中村　伸一（福井県おおい町国保名田庄診療所長）
遠山　信幸（自治医科大学附属さいたま医療センター 副センター長）

（第３分科会）前田　隆浩（長崎大学病院総合診療科 教授）
藤本　幸男（青森県良医育成支援特別推進員）
春山　早苗（自治医科大学看護学部長）

これからの我が国の社会を想像すると、地域医療は「広域連携診療」システムの体制を模索する必要性が生じてくると考えられる。これは、地域医療の新しいかたちへの展開に他ならない。今回、取り上げた先進事例から学び、参加者で議論したところ、広域診療体制を構築する際に参考となる視点として以下を挙げ、提言に代える。

①広域診療体制に対する住民との協議の機会設定

②ICT（情報通信技術）を用いた情報の共有と活用の促進

③地域で働く意義を高めるとともにその環境を整備する工夫

永井学長からのコメント

前田 副実行委員長の閉会挨拶

フォトグラフ

～第１分科会の様子～

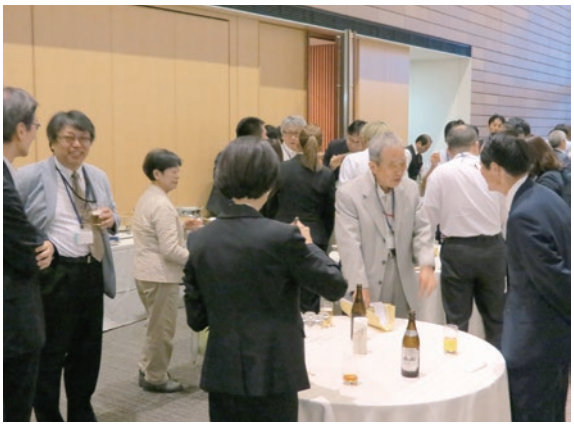
フォトグラフ
～第２分科会の様子～

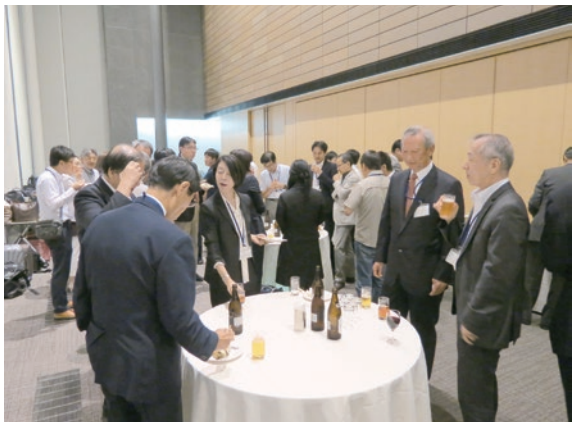
フォトグラフ
～第３分科会の様子～

フォトグラフ
～参加者交流会～

内田 実行委員からのあいさつ

金丸 実行委員からのあいさつ





自　治　医　科　大　学

地域医療フォーラム実行委員会

第12回地域医療フォーラム2019開催事務局
（自治医科大学地域医療学センター）
（自治医科大学地域医療推進課）

〒329-0498
栃木県下野市薬師寺3311-1
TEL　0285-58-7394（地域医療学センター）
0285-58-7054（地域医療推進課）